



J U N K O

循呼 News

看護部特集



信頼される看護部を目指して

Introduction

認定看護師の活躍

■ 腎臓病相談外来

■ フットケア外来

■ 摂食嚥下の取り組み

■ 特定行為研修修了者の活動

Topics!! 「令和4年度 医療の質と安全の向上への取り組み報告会」開催!

“信頼される看護部を目指して”

新型コロナウイルス受け入れ開始から3年が経ちました。第8波も終息し、次第に通常の生活になりつつあります。

当初はコロナに対する不安と戸惑いとの戦いでしたが、今ではwithコロナの医療提供体制を整備しつつ、

本来の県北の高度急性期医療を担う役割を果たすため取り組んでいます。

看護部では“患者さんの生命・権利を尊重し、信頼される看護部を目指します”という理念のもと、

図にあるように、5つのマインドを大切に、看護の質向上に取り組んでいます。看護の現場で、

患者さんに寄り添い、安心できる医療・看護を提供できるように学び、実践している看護部の取り組みをご紹介します。



埼玉県立循環器・呼吸器病センター

副院長兼看護部長 認定看護管理者 高橋 陽子

生命・専門性・その人らしさの尊重を大切にする看護師教育

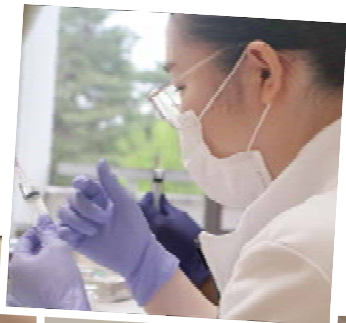
看護部教育担当副部長 認定看護管理者 棚倉 玲子

当センター看護部では、看護部の理念をもとに看護師教育を行っています。

循環器・呼吸器系の専門病院に勤務する看護師として必要な教育を医療の進歩に合わせて教育・研修を行っています。また、教育には、クリニカルラダー方式を取り入れています。ラダーとは、はしごのように一段一段、個人の進行で進めることです。看護師個別のライフワークイベント等に合わせて、簡単なことから難しいことへと無理なくステップアップしていきます。

特に力をいれて教育していることは、第1に患者さんの生命を守るための救急蘇生法です。救急蘇生法は、エビデンス（根拠）に基づき5年ごとに更新される最新の「JRC蘇生ガイドライン」をもとに教育しています。座学研修では、知識を深め、心臓マッサージや人工呼吸などをモデル人形行うことで知識を

技術として体得できるよう繰り返し練習します。その後、知識・蘇生技術のテストを行うことで、確実に身につけることができます。この研修に臨む看護師たちは、非常に緊張しテストが終わるとホッとした顔になるのが印象的です。



第2に専門性の高い看護を実践するための教育です。例えば循環器疾患の患者さんは、心電図モニタを装着している方も多く、異常を早期に発見するスキルを習得するための心電図の研修を毎年行っています。また、専門性を高めるための各分野の研修も行っています。人工呼吸器やECMO（エクモ）などを装着している重症患者さんへの質の高い看護を実践するための研修も計画的に行い、日々研鑽しています。

第3に患者さんのその人らしさを尊重した看護を実践するための教育です。患者（家族）さんの意向と治療との兼ね合いを考慮し、患者（家族）さんが望む人生を歩める支援をするために、臨床倫理、コーチング、高齢者看護などの研修の中で、演習を通して人の理解を深めています。その学びを活かし患者（家族）さんに寄り添い、その人らしく過ごすことができるよう支援しています。

このように患者さんの生命を守り、専門性・その人らしく過ごせるような看護に重点をおいた看護師教育を行うことでよりよい看護を提供できるよう努めています。



摂食嚥下の取り組み



摂食嚥下障害看護認定看護師
野口 雅子

脳卒中後遺症や加齢など様々な要因で、「食べる、飲み込む」ことが困難になり「摂食嚥下障害」という状態になります。「摂食嚥下障害」は口から食事をとることができず、栄養状態の低下をきたし病気の回復を遅らせます。

当センターでは「誰もが口から美味しく食べて幸せに暮らす」ことを目標に、言語聴覚士・摂食嚥下認定看護師を中心とした摂食嚥下支援チームが院内で横断的に活動しています。一人一人の障害を適切に判断し、障害の程度に見合った嚥下訓練の方法、食事姿勢の調整、食事形態の選定、食べ方の指導等を支援しています。患者さんが安全に食事を摂取できるようになった時の喜びは、回復力向上の大きな原動力となっています。

Introduction

認定看護師の活躍

腎臓病相談外来



透析看護認定看護師
林 恵子

腎臓は、私たちの体を正常に保つ働きをする大切な臓器です。現在、腎臓の機能が低下した状態をいう慢性腎臓病は国民の8人に1人と推計されています。慢性腎臓病の療養生活は長期に渡ります。

私たちが行っている腎臓病相談外来は、医療者が患者さんに長期的に持続可能な療養生活指導を行い、患者さん自身が治療方法を選択できるよう生活背景を確認しながら、医療者が患者さんの生活や今後の目標を確認し、療養指導を行っています。さらに腎機能が低下してしまった患者さんに対して血液透析・腹膜透析などの治療が安全に継続できるよう他職種と連携しながら療養指導を行っています。



フットケア外来



糖尿病看護認定看護師
藤井 基広

フットケア外来は、患者さんの足の病気の状態に合わせ、足を守る・足病を悪化させないために、日常生活の過ごし方、足のケア方法を患者さんと一緒に考え、実際に必要な足の治療・ケアを行っている外来です。

糖尿病をもつ患者さんの足の病気や動脈硬化を原因とした足に関する病気を対象に、医師の指示のもと認定看護師が足の観察やスキンケアの方法など病気を悪化させないための支援を行っています。

また、当院は多職種によるフットケアチームがあり、医師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、看護師など、それぞれの専門職の視点から患者の治療やケア方法について話し合いの場を定期的に取り、情報共有を行っています。

特定行為研修修了者の活動



感染管理認定看護師
大沢 朗子

特定行為とは、高齢化社会の日本において、迅速かつ確かな医療を行っていくために設けられた制度です。この制度により研修を受けた看護師は、従来医師しか行えなかった医療行為が手順書をもとに行えるようになりました。

私は令和元年度に特定行為研修を受講し、感染症患者さんへの抗菌薬投与や中心静脈カテーテルの抜去、抹消留置型中心静脈用カテーテルの挿入、高カロリー輸液の投与量調整、脱水症状がある患者さんへの輸液投与などが行えるようになりました。この中で、私は感染症患者さんへの抗菌薬投与に力を入れ活動しています。病院では、肺炎などの感染症治療や手術時の感染予防など、多くの場面で抗菌薬を使用します。効果的な治療を行うためには、たくさんの抗菌薬の中から正しい薬剤や量を選択する必要があります。そのため、抗菌薬の使用状況を把握し、適正使用を推進しています。時には、医師から感染症の治療や抗菌薬の選択について相談を受けることもあります。医師、薬剤師、検査技師とともに多職種で連携し、適切な治療が行えるよう今後も活動していきたいと思っています。

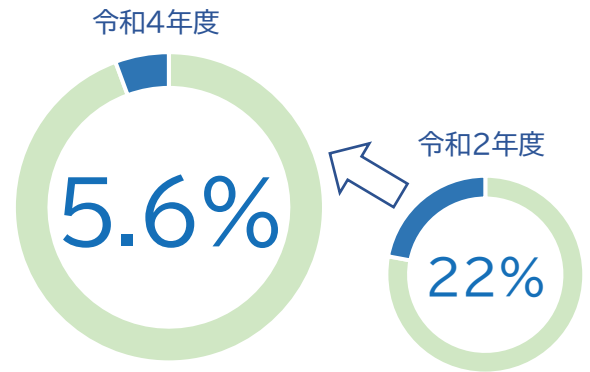
4東病棟の心不全患者の再入院予防に対する取り組み

慢性心不全患者は、原因疾患の進行や加齢の他に、普段の生活習慣により心不全が悪化し、再入院となる患者さんが多い現状があります。再入院を予防するには、患者さん自身が、心不全の悪化を防ぐような生活を送れるよう支援することが重要です。

そこで、令和2年度より心不全の悪化を防ぐ療養生活を送るための支援として生活指導の改善活動に取り組みました。「心不全指導カンファレンスシート」を作成し、それを基に個別的な指導内容を検討することでより患者さんひとり一人にあった生活指導ができるようになりました。その効果もあって、この2年間で再入院率を16.4%減少することができました。

この成果は、「令和3年度 医療の質と安全の向上への取り組み報告会」で報告し優秀賞をいただきました。今後も心不全患者さんの再入院予防に継続して取り組んでいきます。

心不全患者の再入院率



循環器・呼吸器病センターの公式チャンネルを **Youtube** にて公開中です！

こちらでも看護部の取り組みを詳しく解説しています！

ぜひご覧ください。



QRコードを読み込むとアクセスできます！

JUNKO Topics!!

「令和4年度 医療の質と安全の向上への取り組み報告会」を開催しました！

循環器・呼吸器病センターでは、TQM推進委員会が中心となり各診療科、各部門や各委員会などが、質の向上に向けた取り組みの成果を年度末に発表しています。令和4年度は47の取り組みが報告され、その中から7演題が発表されました。病院長特別賞は検査技術部の「物品管理システム導入による作業効率向上の試み」でした。また金賞は事務局（医事・経営担当）の「薬剤価格交渉報告」で、看護部はCCUの取り組みが銀賞を頂くことができました。他にもRCUと看護部認知症ケア推進会議チームが努力賞を頂きました。

看護部から19演題が報告され、その中から発表した3部署の取り組みを紹介します。RCUでは、患者さんへ安全に薬剤を提供できる仕組みづくりを考え実践しました。CCUでは働き方改革の取り組みとして、長い夜勤の前の残業を削減することができました。看護部認知症ケア推進会議チームでは、「カンファレンスを通じて認知症看護の質の向上を図る」というテーマで、抑制をしない患者さんに寄り添う看護の実践に取り組みました。

これからも患者さんへ安心・安全な看護の提供、看護の質の向上に向けて、さらに頑張っていきたいと思えます。



地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立循環器・呼吸器病センター

Saitama Prefectural Hospital Organization
Saitama Cardiovascular and Respiratory Center

〒360-0197

埼玉県熊谷市板井 1 6 9 6 TEL 048-536-9900

<https://www.saitama-pho.jp/junko-c/>

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

